

令和2年度

町政執行方針



奥尻町長
新村 卓実

はじめに

早いもので、私が平成29年に3期目の町政を担わせていただいたことから、最終年度を迎える年となりました。町長に就任以来、町政執行の責任者として「初心を忘れず」、「町民が安心・安全に暮らせる町づくり」を目指し「後世へ残せる町づくり」を進めてまいりました。

3月10日から12日にかけて開催された「令和2年第1回奥尻町議会定例会」で、新村町長の令和2年度における「奥尻町長施政方針」が示されました。
その内容について、要約してご紹介いたします。

町政執行方針

令和2年奥尻町議会第1回定例会が開会されるにあたり、新年度予算並びに関連案件に対する、町政執行への所信表明を申し上げ、町議会議員並びに町民皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

特に、幾多の災害を乗り越えながら、本町行政の中心施設として維持してきました役場庁舎につきましては、本町にとりまして長年の課題でありましたが、皆様のご理解のもと今年度においては、旧奥尻小学校を解体し新庁舎建設に係る実施設計に着手する予定であります。これもひとえに議員始め町民皆様のお陰とっております。

まちづくりの姿勢

本町における経済状況は、長年本町経済を支えてきた水産業、土建業、商

工・観光業のいずれにおいても厳しい現状にあります。

しかし、令和という新時代も持続可能な奥尻町であるために、この危機的経済状況を何とか克服していかなければなりません。

私は今、この危機を乗り越えるため町民とともに「一つの奥尻町」として力を結集し、町政運営に全身全霊をかけて進めてまいります。

それでは、令和2年度に向けて私の「まちづくりの姿勢」について申し上げます。

最初に日本ハムファイターズが実施しております選手と道内の地域の方との交流を図りながら、まちづくり・まちおこしに寄与していく「北海道179市町村応援大使」プロジェクトにおいて、2020年の1年間、奥尻町が選出されました。応援大使には清宮選手と横尾選手が決定しましたので、本町としても2名の選手を含め、日本ハムファイターズを応援していきたいと思っております。

次に町立高校としてスタートしてから5年目を迎える奥尻高校の令和2年度の出願状況についてであります。「まなびま奥尻プロジェクト」を進める「奥尻島」で学びたいと、学区外から奥尻高校に出願された生徒数は、26名となっております。これは奥尻高校の

活動が全国的に認知されてきていると思っているとされており、学区外からの生徒が多くなっているのが奥尻高校のみならず、この島にとって大きなチャンスであると捉えています。

本町にとって島外からの人材を受入れることは、町内在住者にとりましても島外者との交流ができ「将来を担う人材の育成と明るい町づくり」が図られ、今後、本町を担う人材が育っていくものと信じております。

次に前段でも述べておりますが、老朽化した役場庁舎と消防庁舎を建替え、災害に強く町民が安心・安全に暮らせ「島で働き・産み育て・暮らせる」町づくりを目指し、この島が「持続可能」な奥尻町として続くように町民ひとりひとりの力、各町内会の力、行政による力の「自助・共助・公助」の3つの力、さらに地域の助け合い「地域力」を合わせ「ワンチーム奥尻」で、将来を見据えた施策を一步一步着実に進めていきたいと考えております。

この先「持続可能」な奥尻町を築いていくためには、役場庁舎や消防庁舎に加え、同じく老朽化している病院や整備工場など公共施設の適正な維持管理を実施していかなければなりません。しかしながら、現在の財源状況は交付税の削減などから、どうしても毎年基金の取崩しが必要な現状となっております。

ます。
このため財源の確保として、町職員
の理解と協力を頂き、町理事者を含め
給料等の自主削減を本年4月から施行
する条例を提案しております。

予算編成について

当初予算規模は一般会計で40億5千
9百31万円、病院事業を含む各特別会
計で22億5千4百16万円、総額で63億
1千3百47万円であります。

歳入

歳入の自主財源となる町税のうち、
町民税は基幹産業の水産業や公共事
業、さらには商工・観光業の産業所得
の伸び悩みにより、増収を見込めない
ことから、1億2千7百54万円を見込
んでおります。また、固定資産税につ
いては道路改良事業に係る家屋建替え
も終了し、課税客体の減少に伴い9千
8万円を見込んだところであります。

次に例年歳入の50%以上を占める地
方交付税につきましては、国の予算と
しては前年を上回るものの本町は人口
減少などにより、基準財政需要額の試
算におきまして前年を下回ることが予
想されますが、当初予算として19億1
千8百54万円を計上しております。

一方、昨年度より制度改正がおこな

われました本町の貴重な財源となつて
おります「ふるさと納税」につきまし
ては、前年度同額の4千万円を見込ん
でおります。

さらに、財政調整基金からの繰入金
は、前年度比7千万円増額の2億7千
万を計上するなどして町民が安心・安
全に暮らせ「町民がこの街に住んで良
かった」と思う町づくりを進めるため
の予算編成を行ったものであります。

歳出

「歳出」の主な内容について説明を
いたします。

「議会費」では、議会運営に関する議
員報酬や議会だよりなどを作成するた
めの会議録作成業務委託料などを予算
計上しております。

●総務費

一般管理費では、地方公務員制度が
大幅に改正されたことに伴い、臨時職
員の賃金を会計年度任用職員報酬とし
て計上しております。また、事務部門
の新規採用職員として上級職2名を4
月1日より採用することとし、北海道
からの派遣職員として1名の受入れも
決定しております。

財産管理費においては、老朽化によ
り建て替えが喫緊の課題となっており
ました役場庁舎及び消防庁舎につきま
して、旧奥尻小学校を解体して新庁舎

に消防庁舎を併設して建築することと
したことから、旧奥尻小学校解体工事
費や奥尻町総合庁舎建設基本・実施設
計委託料及び地質調査委託料などを計
上しております。

政策推進費としては「第6期奥尻町
発展計画」策定にかかる報酬や策定事
業委託料を計上しております。また、
空港からの2次交通に対応するための
奥尻町2次交通対策事業委託料や日本
ハムファイターズの応援大使に本町が
決定されたことから、応援するための
奥尻町スポーツ振興事業補助金を新た
に計上し、町独自事業による住宅リ
フォーム事業助成金については事業内
容を見直して実施いたします。

その他、選挙費では令和3年3月に
任期満了となる町長選挙に係る経費
を、統計調査費では5年毎に実施され
る国勢調査に関する機械器具等借上料
などを予算計上しております。

●民生費

2022年に団塊の世代が75歳以上
の高齢者となる中で「地域福祉の推進
を図る団体」として位置づけられてお
ります社会福祉協議会への運営補助や
特別養護老人ホーム「おくしり荘」へ

の介護人材不足を解消するための支援
を行うとともに、高齢者が可能な限り
住み慣れた地域で日常生活を営むこと
ができるよう、要介護状態などの予防・

軽減・悪化防止、介護給付などの適正
化への取組を推進していきます。また、
高齢者が安心して暮らせるように町内
会、民生・児童委員、社会福祉協議会、
事業者、地域包括支援センターなどと
連携を強化しながら高齢者等の見守り
などに取組んでまいります。

さらに「この島で子どもを育てた
い」を基本理念に「ひとり一人の子ど
もが健やかに成長することができると
会の実現」を目指すため、妊娠期から
子育て期にわたるまでの母子保健や育
児に関する様々な悩みに対して切れ目
のない支援体制を構築するため「母子
保健型利用者支援事業」を保健福祉セ
ンターにおいて、また、乳幼児と保護
者が交流し、子育てについての情報提
供を行う「地域子育て支援拠点事業」
を奥尻町健康づくりセンターにおいて
それぞれ実施します。

●衛生費

「自分の健康状態に関心を持ち、生
活習慣病の予防や疾病の早期発見」を
促進するため、特定健診やがん検診な
どの受診率の向上を図り、疾病の早期
発見、早期治療、重症化予防へ繋げて
まいります。

さらに、乳幼児等への施策としては、
新生児聴覚検査に要する費用を新たに
助成することとし、経済的負担の軽減
及び新生児の聴覚障害の早期発見・早

期療育を図り、聴覚障害による音声言語発達の影響を最小限に抑え、子どもの健やかな成長発育を促すこととします。

また、国保病院事業会計への繰出金は6千50万7千円を当初予算として計上しております。

次に、一般廃棄物最終処分場についてであります。建設当初は令和4年度までの埋立期間を想定しておりましたが、令和3年度内途中で計画容量に達する可能性があることが明らかとなったことから、埋立処分地施設を建築するための実施設計委託料を計上しております。

4

●労働費

出稼ぎ労働者指導員への報償費などを予算計上し、冬期間の雇用対策として実施しております。「雪かきお助け隊」に係る経費については、降雪状況などを考慮し予算を措置することとしております。

●農林水産業費

農業関係については、水田などの農地を維持するための水路や、農道等の施設の長寿命化を図るための多目的機能支払交付金事業、用排水路施設を整備するための道営土地改良事業負担金、千畳地区における町営牧場やため池施設等の管理路線を整備するための農道整備特別対策事業負担金の予算を

継続措置しております。

畜産業においては、今後も畜産業者が安定して収入が図れるように管理費として、トラクターなどを収納しております公共牧野倉庫のオーバースライダ―修繕料やNOSA Iから獣医師を派遣してもらっている奥尻家畜診療所事業補助金、肥育牛の頭数を増やすための施策としての肉用牛振興事業補助金などを予算計上しております。

林業関係においては「豊かな森」の造成・育成を図るため、民有林や町有林が一体となって間伐や保育事業を実施するために必要な林業専用道球浦支線開設工事や幹線林道球島線改良事業負担金などを予算計上しております。

水産関係においては、本島周辺でのイカやホッケなどの水揚量は年々減少傾向にあるため、アワビ・ウニなどの磯根資源を活用した潜水器漁業への転換が必要と考えております。このため、潜水機器の整備を進めるため、道補助事業の「水産資源管理用潜水器整備事業」補助金を継続して予算計上し、島内周辺漁場の資源保護を進め漁業者の安定収入を図ります。

また、後継者対策として奥尻漁業担い手対策協議会において、奥尻高校生への漁業就業・暮らし体験を実施し、担い手の育成・確保に努めます。

また「北海道離島漁業再生支援交付

金」などを活用し、東海面においてのカキやアワビなどの養殖を実施するとともに、漁業者自らが加工から販売まで手掛ける6次化を目指すための予算を計上しております。なお、漁業者が生産した水産物につきましては「ふるさと納税」の返礼品としても今後、活用したいと思っております。

一方、基本的な生産基盤施設であります漁港整備につきましては、整備事業者の北海道開発局や北海道に引き続き要望してまいります。特に青苗漁港につきましては、次期計画に採択されるよう強く要望してまいります。

●商工費

町民皆様のご協力のもと本町の一大イベントとなっております6月13日開催の第7回奥尻ムーンライトマラソンについては、昨年の参加ランナー400名から従来の500名に戻し、開催することとしており、2月25日より募集しております。地域の皆さまには今年も大会へのご協力をお願いするものがあります。

また、商工会並びに観光協会の体制強化が必要なことから、両団体に対し支援を行い、地域商工・観光業の振興を推進してまいります。

その他、観光客のニーズが高い体験観光を行う「滞在型観光周遊事業」や「奥尻島歓迎キャンペーン事業」、「奥

尻三大祭協賛行事運営委員会への補助事業」なども継続して実施します。

また、神威脇温泉保養所やリトルパークゴルフ場、本町の冬期間の燃料の安定供給を行うための灯油備蓄施設の指定管理費なども予算計上しております。

●土木費

住民生活に必要な不可欠なインフラ整備のため町道の維持管理や除雪対策、河川管理、住宅管理費などに係る予算措置しており、継続事業としては橋梁長寿命化修繕事業工事、たかのす団地公営住宅建替工事、工事監理委託料、外構工事費等を予算計上しております。

また、本町経済の大動脈となっている道道奥尻島線の長浜区間などの道道の改良につきましても、引き続き北海道に要望してまいります。

港湾費においては「奥尻港湾長期計画」に基づき、新漁港区の船揚場（13m）（北）などの整備を国直轄事業で予定しており、その負担金を予算措置しております。

また、住民や観光客が親しみやすい港湾として「みなとオアシス」の指定を目指すとともに、「せたな航路」の一日も早い再開や「新航路」も念頭に、港湾整備を進めてまいります。

さらに港湾海岸事業においては、新規として海岸事業の費用対効果を分析

するための奥尻港湾海岸事業評価委託料を計上するとともに、防潮堤を整備するための工事請負費も予算計上しております。

空港費におきましては、令和3年度から新機種ATR42-600型機が就航する予定であり、提供座席数が現行機種の36名から12名増の48名となることから島民や島外客の利用促進を図るため、就航率の向上や安価な料金の提供をJAL等に要望してまいりません。また、北海道では航空機がオーバーランした場合に航空機の損傷を軽減させるため、着陸帯の両端に設けられる滑走路端安全区域を延長させるための「奥尻空港滑走路端安全区域整備事業」を実施する予定であります。

5

●消防費

町民の生命と財産を守り、災害対応などにも対処できる体制づくりの構築を図るための予算として、老朽化している青苗分遣所の屋根改修工事費などを計上しております。

また、団員の報酬等の見直しを検討するとともに消防団員の加入促進を進め、消防団員の各種大会への参加を奨励し、技能や質の向上を図り、消防署員・消防団員一丸となって地域の防災・減災へ取組んでまいります。

●教育費

子どもたちが未来に向けて、羽ばた

けるように「奥尻町の将来を創り出す」という主体性をもった人づくりや、町の歴史や文化に誇りをもって活躍できる、学びづくりを進めてまいります。

特に、世界に通用する人材育成を図るために外国語指導助手報酬やICT教育を推進するためのパソコン等の機械器具借上料を予算計上しております。

また、奥尻高校の島留学生への支援策として、奥尻高校寄宿舎運営委託料や島留学生助成金なども予算計上しております。

なお、議員の皆様から要望がありました島内出身高校生への昼食費の支援についてですが、当初予算では財政状況が厳しいことから、予算を計上しておりませんが、特別交付税の加算の対象として、町の奥尻高校の取り組みを考慮頂けるといことから、6月議会にその昼食費の2分の1を助成するための予算を提案することとしており、今後、要綱等の整備を進めて参ります。

●特別会計

バス交通事業会計においては島留学生の増が見込まれることから、バス運転手の会計年度職員を1名増員し、子ども達が利用しているスクールバスなどの運行体制の強化を図ります。

また、施設が老朽化しております自

動車整備工場やアワビ種苗育成センターにつきましては、一部修繕等を図り、施設の延命に努めてまいります。

次に、直営診療所会計においては、委託医師を引き続き募集中であります。その他、高齢者のニーズに対処するための「国民健康保険」や「介護保険」、さらには「後期高齢者医療」などの各制度につきましても引き続き適正な運営に努めてまいります。

次に、水道事業会計や下水道事業会計においては、固定資産台帳整備支援業務委託料や施設の維持管理費などを予算計上しております。特に、水道会計では給水区域を拡大することに伴う谷地送水ポンプ場新設工事費を、下水道会計では、東風泊地区への下水道管敷設工事費に係る予算を計上しております。

最後に国保病院の医師については現在、函館市在住の1名と協議をしているところであります。

以上が、令和2年度の町政運営に対する私の基本的な姿勢と会計予算案の主な内容であります。

おまわり

今年は大正9年に国勢調査を始めて以来、100回目となる節目の年であります。本町においては、この間、

水産業を基幹産業として栄え宝の島と呼ばれ、8,000名の人口を有した時代もありましたが、現在は少子高齢化が進み、人口も2,600名弱となっております。今後は交付税の削減が推測されます。また、長年地域経済を支えてきた漁業・土木事業・観光業などにおいても非常に厳しい現状が予想されます。

このように厳しい現状の中ではありますが、将来にも奥尻町であり続けるために「第6期奥尻町発展計画」を策定し「持続可能な奥尻町」を目指し、「ワンチーム奥尻」で、一致団結してこの厳しい現状に活路を見出していきたいと思っておりますので議会議員や町民の皆様には、ご理解とご支援を改めてお願い申し上げます。

以上で私の令和2年度の施政方針とさせていただきます。

